



革命

「ラストエンペラー」の
ベルトルッチの初期代表傑作
ついに日本初公開

監督◆ベルナルド・ベルトルッチ
撮影◆アルド・スカヴァルダ
出演◆アドリアーナ・アスティ
フランチェスコ・パリッリ
アレン・ミジエット
1964年◆イタリア映画
64年カンヌ映画祭新進批評家賞
67年ナント映画祭マックス・オフェルス賞受賞
配給 ケイブルホーク

ベルトルッチの原点がここにある。

前夜

Prima della Rivoluzione



ベルトルッチの原点

革命前夜

Prima della Rivoluzione

(スタッフ)

監督・原案 ……………ベルナルド・ベルトルッチ

撮影 ……………アルド・スカヴァルダ

音楽 ……………ジーノ・パオリ

エンニオ・モリコーネ

編集 ……………ロベルト・ベルビニャーニ

(キャスト)

ジーナ ……………アドリアーナ・アスティ

ファブリツィオ ……………フランチェスコ・バリッリ

アゴ스티ーノ ……………アレン・ミジェット

チェーザレ ……………モランド・モランティ

クレリア ……………クリスティーナ・パリゼット

ブック ……………チェクローベ・バリッリ

少女 ……………エヴェリーナ・アルビ

ファブリツィオの友人 ……………ジャンニ・アミーコ

1964年イタリア イリーテ・チネマトグラフィ製作

モノクロ(パートカラー) ヴィスタサイズ

上映時間 1時間52分

1964年カンヌ映画祭新進批評家賞受賞

1967年ナント映画祭マックス・オフェルス賞受賞

『革命前夜』は、『殺し』に次いでベルトルッチが22歳の時に撮った長篇第二作である。パゾリーニの原案による『殺し』は、パゾリーニの世界をベルトルッチのスタイルで撮った作品と言えるが、ベルトルッチの自伝的作品と言われる『革命前夜』は、ベルトルッチの第二の処女作とも言えよう。

物語の舞台は、ベルトルッチの生まれ故郷パルマである。(この後、パルマは、『暗殺のオペラ』『1900年』『ルナ』『滑稽な男の悲劇』と、ベルトルッチの作品の重要な背景となる)。パルマのブルジョワ出身の青年、ファブリツィオは、コミュニストであることを自認している。しかし、同じ年頃の友人、アゴスティーノの突然の死、そして若く魅力的な叔母ジーナとの近親相姦的な恋愛を体験して、次第に自分の思想の欺瞞性に悩むようになる。結局、ファブリツィオは、自分がブルジョワの一員であることを受け入れ、ブルジョワの娘クレリアとの結婚を決意する。

『革命前夜』は、ベルトルッチの原点となる作品である。パルマのガリバルディ広場、ポー河、歌劇場、ヴェルディのオペラは、ベルトルッチ映画のキーワードとして、その後の作品でも繰り返し出てくる。

高校時代、パリのシネマテークに通いづめたベルトルッチは、筋金入りの映画狂であった。そして、同じように映画狂であったゴッダールやトリュフォーの〈ヌーヴェル・ヴァーグ〉の作品に傾倒した。『革命前夜』では、本の朗読・引用(パゾリーニの詩、オスカー・ワイルドの『芸術と批評』、マルクス=エンゲ

ルスの『共産党宣言』、メルヴィルの『白鯨』)、即興風の演出、街を捉えるカメラの息づかい等にヌーヴェル・ヴァーグの影響を見ることができる。また、主人公のファブリツィオも映画狂らしく彼は友人にハワード・ホークスの『赤い河』を見に行くように勧め、別の友人とはゴッダールの『女は女である』を見に行く。そして映画狂の友人は、ヒッチコックの『めまい』を8回見て、ロッセリーニ

の『イタリア旅行』を15回見たと言う。

主役のフランチェスコ・バリッリ他、多くの出演者は新人である。この中でジーナ役のアドリアーナ・アスティは舞台出身の女優で、ヴィスコンティの演出した舞台に多く立ち、映画ではヴィスコンティの『若者のすべて』(60)でデビュー。以後、ヴィスコンティの『ルートヴィヒ』(72)、ブニユエルの『自由の幻想』(74)等の作品に出演している。アゴスティーノ役のアレン・ミジェットは、『殺し』の兵士役に既にベルトルッチ作品に顔を見せ、その後も『暗殺のオペラ』『1900年』にも出演。また、ファブリツィオの友人の映画狂を演じるジャンニ・アミーコは、この作品のシナリオの共同執筆者であり、助監督でもある。

美しいモノクロ撮影を手掛けているのは、アントニオーニの『情事』、ボロニーニの『狂った情事』の名カメラマン、アルド・スカヴァルダ、カメラ・オペレーターは、後に撮影監督となって『女たちのテーブル』『流されて2』等を撮っているカミッロ・バッツォーニ、そして、さらに、この作品でカメラ・オペレーター助手をつとめているのは、後にベルトルッチ作品に欠かすことのできない名撮影監督となるヴィットリオ・ストラーロである。

音楽は、イタリアの人気歌手ジーノ・パオリと『パートナー』『1900年』などのエンニオ・モリコーネが担当。編集はベルトルッチの初期の作品『パートナー』『暗殺のオペラ』、そして『グッドモーニング・バビロン!』などのタヴィアーニ兄弟の作品を多く手掛けるロベルト・ベルビニャーニが担当。



同時上映『殺し』(B・ベルトルッチ監督)

7/22(土)~8/4(金)

特別鑑賞券1,200円発売中(当日/一般1,600円・学生1,300円)



KINEMATOGRAPH
中野武蔵野ホール
 〒164 東京都中野区中野5-60-11
 ☎03-389-3301

革命	11:00	2:55	6:50
殺し	1:10	5:05	